

発行所 (郵便番号105-0013)  
東京都港区浜松町1-8-1  
(株)科学新聞社内5F  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel 03(5776)1835  
Fax 03(5776)1836  
編集責任者 岡沢憲美  
印刷所 東友印刷  
定価 400円(年間購読料四千円)  
1999年7月25日発行  
No. 310 第31巻 4・5・6・7合併号  
(毎月1回25日発行)  
昭和44年12月23日第3郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

No. 310 Bulletin Vol. 31 No. 4・5・6・7号

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
C/O Kagakushinbunsha, 1-8-1 Hamamatsucho, Minato-ku, Tokyo, Japan



ストックホルム  
写真：中嶋千絵 (dill com)

## 目次

### 巻頭写真

21世紀社会のモデル探し

第3回エリクソン・テレコミュニケーション・  
アワード授賞式開催!

The Natural Step Japan持続可能な社会のシステム  
条件に関する1万人アンケートへのご協力のご案内

Events of STOCKHOLM 99

書籍紹介

児童の商業的性的搾取に反対する世界会議

グレイゾーンの子供たち

インフォメーション

# 21世紀社会のモデル探し

— スウェーデンは21世紀社会のモデルたり得るだろうか —

環境問題スペシャリスト 小沢 徳太郎 Environmental advocate Mr.Tokutaro Ozawa

## ●はじめに

現在の日本の状況を「不況」と呼び、1998年の参議院選挙では国民の多くが「景気の回復」を強く要求した。選挙後のわが国の政治の現状は「景気の回復」とバブル崩壊で生じた「銀行の不良債権」への対応で大忙しである。

このような状況の下では、環境問題の危機的状況を正しく把握し、意識を継続している人は少数であろう。現状の理解が十分でなければ、国も、企業も、そして国民も環境問題解決のために動かない。

高齢化と少子化の同時進行から福祉の充実が叫ばれる日本よりも一歩先に福祉社会を実現した“現実主義の国”スウェーデンは、21世紀の新しいビジョンとして福祉社会を超えた「持続可能な社会」を掲げ、その実現が「政治の目標」となっている。スウェーデンは持続可能な社会へ移行するには「一次エネルギーの65%弱を化石燃料と原子力に依存する現行のエネルギー体系」を長期的には「再生可能なエネルギーを中心としたエネルギー体系」に変えていく必要があると考えている。この背景には「20世紀の産業経済システムの更なる拡大は“生態学的に持続不可能”であるとする科学的判断」に基づいた厳し

い政治的判断がある。「経済の持続的拡大」を今なお追求する“現状追認主義の国”日本の考えとは正反対である。

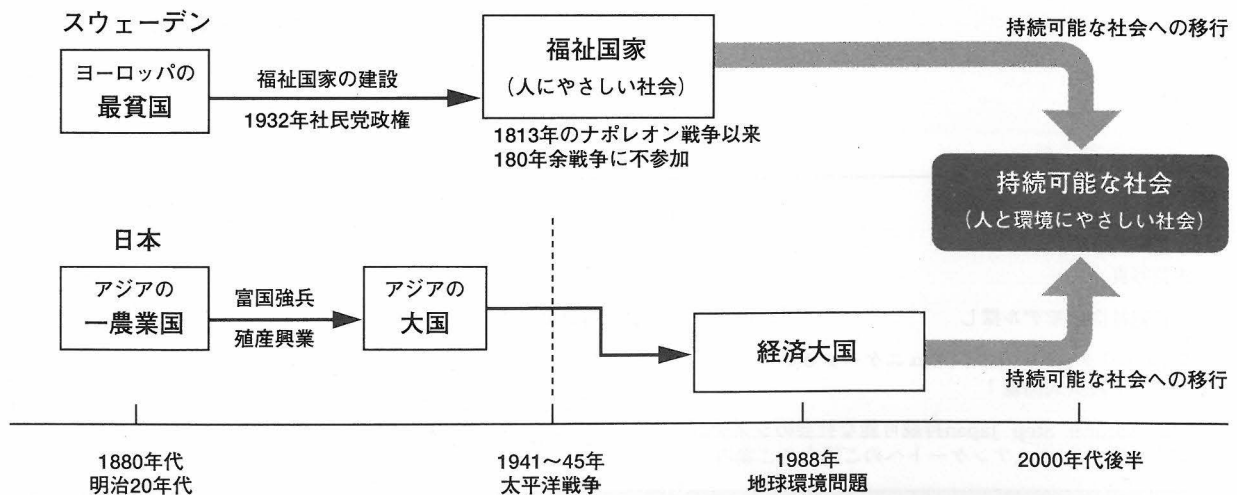
21世紀を目前に控えて、世界は、現在、激しく流動し様々な問題が顕在化し、我々の目に見えるようになってきた。国際社会の動きに振り回されている感のある日本にとって、これまで「スウェーデンから何を学ぶか」という問いかけが多くなされてきたが、今回は「スウェーデンは21世紀社会のモデルたり得るだろうか」という視点から、スウェーデンの「環境問題に対する考え」とそれを支える「社会システム」を広く概観する。

## ●経済的に成功した2つの国

ドイツと共に、日本とスウェーデンは世界の歴史の中で経済的に成功した代表的な国である。この2つの国の過去100年の歩みを簡単に振り返ってみよう。

スウェーデンは100年前、ちょうどわが国で言えば、明治20年代の頃であるが、ヨーロッパの最貧国であった。スウェーデンは決して最初から豊かな国ではなかったのである。一方、日本はアジアの温帯に属する比較的豊かな国であった。なぜなら、温帯の国は人間の生存の基本である最低限の衣食住の制限条件が厳しくないからであ

## ■「スウェーデン」と「日本」の過去100年の歩みと将来の方向



る。ところが、100年前の北欧は北極圏に近い関係から、自然条件が厳しく輸送手段もままならず、しかも食料にも不自由し移動も困難な状況にあったと想像される。

### ■長期単独政権の成果

スウェーデン：社民党44年「福祉国家」

日本：自民党38年「経済大国」

### ■経済発展の原動力

スウェーデン：「不安」を公的な力（社会システム）によって解放し「安心感、安全、安定」を求めて経済発展

日本：「不安」をてこに、競争と技術によって「効率化」と「便利さ」を求めて経済発展

### ●今後の課題

これまでの話は過去のことであるが、今後50年を展望すると、この2つの国の将来は大きく異なるであろう。日本とスウェーデンの間には技術力の落差はほとんどないが、21世紀社会の「あるべき姿」とそこで利用される「技術開発の方向性に関する知識」に大きな落差がある。両国の前には、まさに人類の生き残り策を考える21世紀最大の学際的な課題である“環境問題”という共通の巨大な壁が立ちちはだかっているからである。

この壁を乗り越えるには社会システム、慣習、価値観の変更、産業経済システムの変革などが必要となる。スウェーデンは福祉国家を築く過程で公的な力により社会システムに改良を加え、利害の異なる国民からなる社会の中に「合意を形成するシステム」を定着させてきたが、社会システムの変更は日本が最も苦手とするところである。スウェーデンは生活大国の段階で環境問題に直面し、わが国は経済大国に到達した段階で環境問題に直面している。

### ●スウェーデンは21世紀社会のモデルたり得るだろうか

今や人類共通の最重要課題である「環境問題」の解決にはほとんどの国、地域で「平和と民主主義」が確立されなければならないことと、人の活動が「人および環境の許容限度」を超えないこと、言い換えれば、社会に「生態学的な持続可能性」が必須である。1992年の地球サミットで合意された「アジェンダ21—行動計画」を実効あるものにするためにこれらを実行に移せる「社会システム」がなければならない。世界を眺めれば、これらの条件を満たすことが出来る国々や地域はほとんどないと言ってよいであろう。スウェーデンはその数少ない国の1つで、おそらく、この分野では世界の最先端を走っている国であろう。

### ●まとめ

スウェーデンでは、政府、自治体、企業、市民の間で「人間は自然の法則から免れて生存出来ないこと」が理解されており、企業も含めて社会全体としてすでに「環境問題に対するコンセンサス（合意）」が出来上がっている。その上に、「生態学的に持続可能な社会を構築すること」が「政治の目標」となっているので、スウェーデン企業は、他国の企業よりも環境分野の活動に自信をもっており、環境分野の投資に積極的である。

スウェーデン人は、「生態系の保全」が自分たちの生存を保障すると考えているのに対し、日本人は「現行の経済の持続的拡大」が自分たちの生存を保障しているかのようなのである。日本のように、このまま「現行の経済の持続的拡大」を追求する方向をとるか、スウェーデンのように“国民の総意の下に”「持続可能な社会」の実現をめざすかは、我々の選択の問題である。スウェーデンは、「科学者の合意」と「政治家の決断」により、どちらの方向に人間の未来の方向性があるかを考え、「持続可能な社会への道」を選択した。「持続可能な社会を実現する」ことは国民の大多数が安心して生活ができ、希望が持てる明るい未来社会を作ることであるから、我々が今直面している「行・財政改革、高齢化社会の問題、福祉問題、教育問題、震災対策など」の様々な社会問題は環境問題の解決と軌を一にするものである。同時多発している諸問題の解決では、問題個々に取り組むのではなく、同時解決を図るためにシステムティックなアプローチが必要である。

（本稿は1999年5月12日に行われたセミナーの資料から編集されたものです）

スウェーデンは当り前のことを当り前に行う国であり、スウェーデンを真似することはないがその方向性に注目する必要がある、との言葉が特に印象的であった。（M）

小沢 徳太郎（おざわ とくたろう）

1973年2月、スウェーデン大使館に入る。科学技術部環境保護オブザーバーとして、環境、エネルギー問題を担当。1995年7月に独立し、現在環境問題スペシャリストとして執筆、講演活動で活躍。著書に「いま、環境・エネルギー問題を考える」（ダイヤモンド社、92年）、「スウェーデンの経済」（早稲田大学出版、94年、共著）「21世紀も人間は動物である」（新評論、96年）、「文科系のための環境論・入門」（有斐閣、98年、共著）などがある。

●小沢徳太郎氏のホームページ

<http://www.angel.ne.jp/~ozawa/>

E-mail: ozawa@angel.ne.jp



## 第3回エリクソン・テレコミュニケーション・アワード授賞式開催！

エリクソン社（本社：スウェーデン・ストックホルム）の日本法人である日本エリクソン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：モーガン・ベングッソン）は、スウェーデン大使館協力のもと、5月17日スウェーデン大使館において「エリクソン・アワード」の授賞式を行いました。

この賞は、エリクソンの日本での活動が10年を迎え、今後の日本における情報通信分野の発展・振興に寄与する優れた研究活動を奨励することで、社会発展に貢献する目的で1997年に創設されました。

「エリクソン・テレコミュニケーション・アワード」は、情報通信分野で多大な貢献をした日本国内の研究者を、また、「エリクソン・ヤング・サイエンティスト・アワード」は情報通信分野での今後の活躍が期待される若手研究者を対象としています。

授賞式には、猪瀬審査委員長（文部省学術情報センター所長）をはじめ、モーガン・ベングッソン社長らが出席し、「エリクソン・テレコミュニケーション・アワード」受賞

者にはクリスター・クムリンスウェーデン大使より表彰状、盾及び賞金を手渡されました。

エリクソン社は120年以上の歴史を持ち、現在全世界140ヶ国で約10万人の社員を有する通信分野のリーディング・カンパニーです。特に移動体通信システムに関しては、世界の携帯電話ユーザーの約40%がエリクソンのシステムを使用しています。また、研究開発にも積極的に投資しており、現在世界25ヶ国にR&Dセンターを持ち、2万3千人が研究開発に従事しています。

日本においても情報通信分野における研究開発活動には非常に積極的に取り組んでおります。1997年10月には通信技術研究の一大拠点である横須賀リサーチパーク（YPP）に通信技術研究開発センターを設置し、次世代の移動体通信システム「W-CDMA」の研究・開発を行っています。今後も国内の大学・研究機関等と積極的に交流をはかり、このプログラムが将来の研究・開発に役立つことを期待しています。

## 持続可能な社会のシステム条件に関する1万人アンケート

スウェーデン生まれの環境教育団体

The Natural Step Japan

ナチュラル・ステップ・ジャパン

スウェーデンでは10年前、ナチュラル・ステップという団体が、環境問題を枝葉のレベルで対処するためにおきる混乱状態から脱却し、問題の根幹から取り組むことを提唱しました。

そのために、多くの科学者と共に議論を重ね、持続可能な社会を定義しました。それが、以下の4つのシステム条件を満たした社会です。

●持続可能な社会では、

1. 地殻から取り出した物質が自然の中で増え続けられない。
2. 人工的に作られた物質が自然の中で増え続けられない。
3. 自然の循環と多様性が守られる。
4. 人々の基本的なニーズを満たすために、資源が公平かつ効率的に使われる。

現在、スウェーデンではこの条件が、地方自治体、企業などにおいて広く環境問題へ取り組むための方針となっています。そして、「バック・キャストिंग」という、最初にこの条件を満たした状態を想定し、そこから振り返り現状を分析する方法を用いて、段階的に対策を進め、成果をあげています。

このように「4つのシステム条件」と「バック・キャストिंग」を使い、対話を通じて持続可能な社会の構築を目指すことが、ナチュラル・ステップの願いです。（詳細は、ナチュラル・ステップのホームページ[www.ner.co.jp/tnsj/](http://www.ner.co.jp/tnsj/)を御覧下さい。）



スーパーに貼ってあるエコロジーの看板

■エリクソン・テレコミュニケーション・アワード受賞者



辻井 重男 (Shigeo Tsujii)

中央大学理工学部情報工学科教授  
受賞業績：情報通信におけるデジタル技術の高度化に関する研究

■エリクソン・ヤング・サイエンティスト・アワード受賞者



足立 朋子 (Tomoko Adachi)

慶応義塾大学大学院理工学研究科  
電気工学専攻  
受賞業績：移動体通信システムにおける周波数有効利用に関する研究



内田 敦史 (Atsushi Uchida)

慶応義塾大学大学院理工学研究科  
電気工学専攻  
受賞業績：マイクロチップレーザーにおけるカオス制御・カオス同期法の確立及びその情報通信応用



染谷 隆夫 (Takao Someya)

東京大学生産技術研究所  
受賞業績：次世代情報通信に向けた半導体ナノ構造デバイスに関する基礎研究

## 一トへのご協力のご案内

### ●ナチュラル・ステップ・ジャパンの発足

ナチュラル・ステップは現在、スウェーデンをはじめ米国、カナダ、イギリスなど世界8ヶ国で組織され、活動しています。日本ではこの4月にナチュラル・ステップ・インターナショナルのライセンスを取得し、「ナチュラル・ステップ・ジャパン」が正式に発足しました。そして、初年度の事業の1つとして、持続可能な社会に関するアンケートを実施することになりました。このアンケートの目的は、日本全国の科学者、産業界、行政、環境NGOなどの方々1万人に、持続可能な社会の原則を考えていただき、その意見を基に、持続可能な社会の条件を合意文書としてまとめ、社会の環境対策や環境教育の指針として提唱することです。

21世紀を目前にして、これまでの「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の社会経済システムが、持続可能でないと認識されるようになりました。今、持続可能な社会を構築することが求められています。そのためには、持続可能な社会とは何かを、明確にする必要があります。アンケートにご協力頂ける方、または興味のある方は下記までご連絡して下さい。

連絡先：ナチュラル・ステップ・ジャパン (TNSJ) 事務局  
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-25-1  
TEL:03-5643-6221

# Events of STOCKHOLM 99

99年7月～9月 ストックホルムの行事



### STOCKHOLM PRIDE <ストックホルムプライド> (7月28日～8月1日)

北欧諸国最大のゲイカルチャー祭典。

### DN GALAN <デーエヌガラー>

(7月30日)

世界陸上競技。世界のトップアスリート達がストックホルムオリンピックスタジアムで競技。

### STOCKHOLM WATER FESTIVAL

<ストックホルム水の祭典> (8月6日～14日)

水に囲まれたストックホルムで開催されるウォーターフェスティバル。花火、レストランマーキー、演劇フェスティバル、ダンス、ウォーターゲーム、過激なウォータースポーツ、手工芸品、音楽など、あらゆるジャンルのエンターテイメント。

### STOCKHOLM WATER SYMPOSIUM

<ストックホルムウォーターシンポジウム> (8月9日～11日)

世界の水をテーマに国際環境会議、科学セミナー、ワークショップを開催。シンポジウム開催中、スウェーデン国王カール16世グスタフよりストックホルムウォータープライズの授与が行われる。

### THE STRINDBERG IN STOCKHOLM FESTIVAL

<ストックホルムフェスティバル ストリンベリ特集>

(8月28日～9月5日)

カルチャーフェスティバル。ストリンベリの生涯、作品にスポットをあて、パフォーマンス、音楽、展示会、ウォーキング、読書会、スティームボートによるツアー、映画上映などを開催。

### 10KM RACE FOR LADIES <レディスマラソン>

(8月29日)

3万人を超す女性が参加する10kmマラソン。コースはヤードット広場およびユールゴードンのフィルムハウスにてスタートおよびゴール。

### EUROPEAN FOOTBALL CHAMPIONSHIPS

<ヨーロッパサッカー選手権> (9月4日)

ソルナのロースンダスタディオンにてスウェーデン対ブルガリア戦

World Congress Against Commercial and Sexual Exploitation of Children

5月にスウェーデン大使館で「児童の商業的性的搾取に反対する世界会議」(96年スウェーデン)で決まった行動綱領のその後を検証、推進する第3回フォローアップ会議が開かれた。

「児童買春禁止法を文書にとどめては許されません」

非政府組織(NGO)の国際エクパット(子供買春、ポルノ、性目的の人身売買根絶の国際運動=本部バンコク)副議長で、スウェーデンエクパット代表のヘレナ・カーレンさんは基調講演でこう強調した。

スウェーデンでは今年1月1日から新しい刑事責任法ができ、子供ポルノは出版物だけではなく、インターネットなどでも禁止され、所持することや輸出入も禁止された。これに

ともない、表現の自由を規定した憲法改正も行われた。また、今年1月からは子供に限らず、性的サービスを買うことが禁止されたと話した。

子供買春を未然に防ぐため、スウェーデンエクパットは観光業者とも契約を結んでいる。カーレンさんは、96年のスウェーデン「世界会議」で、2000年までに児童の商業的性的搾取を根絶するために各国が行動計画を作ることを採択した点に触れ、「日本はすぐ行動計画作りに取り組むべきです」と結んだ。



サッカーを通して社会を学び心も癒されるグレイゾーンの子供たち

A Children of grayzone

## グレイゾーンの子供たち

マルメ大学総合病院小児・  
青年ハビリテーションセンター作業療法士

河本 佳子

Occupational Therapist Ms.Yoshiko Komoto

先日、スウェーデンの全国ネットニュースで私の勤めているハビリテーションセンターが話題になりました。これは、普通児でありながら何らかの支障があるグレイゾーン(灰色ゾーン)に属する子供達を救う新しい試みが、ハビリテーションセンターを筆頭に、児童精神科とサッカークラブで始まったからです。

グレイゾーンと呼ばれている子供達は、学習能力や運動能力が低下していて普通児についていけないとか、微脳障害を持つ多動性の子供、そのため様々なトラブルに巻き込まれるなど、いわゆる落ちこぼれや問題児、運動音痴、いじめに合う子、自虐的で攻撃的で社会性に乏しい子供などです。

これらの子供はサッカーをしたくて地元のサッカークラブへ参加しても、(ちなみに日本に必ずある学校でのクラブ活動はスウェーデンではありません。それぞれ地域の公共や私立のクラブ活動に個人で参加して行くわけです。)うまく同等にプレイ出来なくて悲惨な結果を生むか、自信を無くしてしまうかなのです。ですからエリート養成をしているサッカークラブではこの子供達はどこでも敬遠され、子供達は意欲を無くしてスポーツをあきらめたり、他所で物質を壊したりの破損行動にでたりするのです。

ところがセンターからの呼びかけでブンケフルー(Bunkeflo)地域のサッカークラブが初めてこの子供達だけのグループを作り率先して受け入れてくれたのです。往来

このような微脳障害を持つ児童の検査・調査・診断・治療はハビリテーションセンターと精神科と協力しながら、微脳障害がもたらすトラブルの緩和に努力してきました。治療と言っても普通の医療だけでは出来ない問題性を持つ異種障害だけに、ハビリテーションセンターでは感覚障害の顕著な部分を感覚統合訓練などで補うと同時に家族への援助や学校や地域からの理解度を高めるために行政機関のネットワークを広げて訴えてきました。

その他にハビリテーションセンターでは、身体的障害児もグレイゾーンの子供も含めて、様々な医療訓練を行うと同時に、彼等がより充実した生活を営めるようにと余暇活動にも重点を置いて来ました。ですからいろいろなクラブ活動が出来るようにと障害児のやりたいこと、試してみたいことなどを積極的にセンターに取り入れてきたのです。

陶芸、絵画、木工などの通常のものから、室内ホッケー、スキューバダイビング、ヨット、水上スキー、サマーキャンプなど大胆なものまでなら不可能という言葉は無いと言うほどいろいろな事にトライしてきました。そこで今回このセンターからの呼びかけでブンケフルーサッカークラブが協力に応じ、このグレイゾーンばかりの児童を集めたクラブが発足したのです。サッカーは面白い?との質問に子供達はほころぶような笑顔で当たり前だと答えます。「僕はサッカーする前はゲームで負けたりしたら、最高に



怒ってたんだけど、サッカーで負けても今では怒らないよ」とか「サッカーの規則を覚えなくちゃいけないんだ、反則すると退場になるから」と子供達が嬉しそうにニュースで語っていました。私が手の機能評価をして知覚感覚と身体にかかる力の分配に支障があると出た結果の子供も全身に力を込めてボールを追い、蹴飛ばしています。足に当たるボールを身体のどの部分に力を入れたら前方に飛ばか、左にパスするにはどうしたら良いか、また手を使ってどのようにしたら遠くへ投げられるか、言葉では指導できない動作を毎日の訓練の中で楽しく獲得して行っています。

「以前は何をしても睡眠が浅くてすぐに目を覚ましてうろろしたり、私達を起こしていたのに、サッカーをし始めて疲れるのか今ではぐっすり眠るようになったわ。それに友達も出来なくていつも1人だったのにサッカーを通して友達が出来て喜んで行くのよ」と母親がほっとした表情で話しています。普通のサッカークラブよりはスマートに走れない子供達、蹴飛ばすとあらぬ方角へ飛んで行くボールを一流トレーナーでもあるステファンは根気よく教えている。「前からこういう話はあったのだが、今回それが実現して非常に嬉しい。この子供達がサッカーにかかるエネルギーや意欲は他のクラブの誰にも負けていない。サッカーを通して規則や社会性を学び、勝敗を喜ぶ感情をコントロール出来ればいいと思う。本当にやりがいのあるサッカーです」と子供達を

見る目も優しく彼は熱心にそう語っていました。その試合をする喜びを分かち合うために、ハピリテーションセンターとHISO(障害者協会)は地方にも呼びかけ、知的障害児や多動性児を集めたチームが新しく作られています。隣町にもチームが出来てブンケフローと初めての試合を控えているそうです。ニュースのお陰で今後全国的に広がるのでは嬉しく思っています。ひょっとしてすでに日本にはそういうサッカーや野球チームがあるかもしれません。もしあればその活動状況についてお話を伺いたいものです。もしなければ作ってもよいのではないのでしょうか。

(Home Page : <http://www.geocities.co.jp/Colosseum/2809>)

# BOOK'S GUIDE

## (1) 「ロサーリオの死」

マイグル・アクセルソン 著  
津金レイニウス豊子 訳  
ECPATスウェーデン日本事務所  
Fax:03-5562-5141  
定価1,800円(税込)→1,700円(割引)



外国人医師による性的暴行によって死亡したフィリピン人少女の事件を追ったドキュメンタリー小説。この事件をきっかけに、子供に対する商業的性的搾取問題が取りあげられ、スウェーデン・シルヴィア王妃も深く関わるなど、国際的な運動(ECPAT)へと広がっていった。

日本でも、今年5月ようやく子供買春、子供ポルノ禁止法が国会を通過し、子供ポルノ発進地としての汚名返上のための土台を作り活動が開始された。

【著者：マイグル・アクセルソン】作家、ジャーナリスト。本書は、1989年にスウェーデン語で出版され、その英語版は、1996年にスウェーデン・ストックホルムで開催された「子供の商業的性的搾取に反対する世界会議」を機に出版された。

【訳者：津金レイニウス豊子】瑞日基金事務局代表のかたわら、フリーランスの翻訳、通訳を務める。訳書には、「アルフレッド・ノーベルとノーベル賞—そのすばらしい舞台裏」(コンサル出版、95年)などがある。

## (2) 「北欧ナチュラルライフに出会う旅」

植月縁 著/鈴木縁 写真  
東京書籍  
定価1,890円(税込)→1,710円(割引)



ストックホルム市内のオーガニックガーデンの庭師とシェフ。文化活動とデザインを無理なくマッチさせているデザイナー。現代生活に生きる伝統的な麻織物。バルト海の光の島ゴトランド島。コペンハーゲンのエコロジック発想のホテルや、ヴェジタリアンのフードショップなど、「肩ひじはらずに」「自分らしく」自然とともに暮らす北欧の人々の知恵と生活哲学を紹介する。透明感のある写真も雰囲気をよく伝えている。

【著者：植月縁】岡山県生まれ。インテリア雑誌の編集部を経て94年からフリーランスになり、雑誌や広告の編集、取材を行う。

【写真：鈴木縁】東京都生まれ。北欧家具をはじめヨーロッパ家具の輸入エージェンツ業をこなしながら、雑誌の取材・コーディネートも行っている。

## (3) 「スウェーデンからこんにちは」

アキコ・フリッド 著  
上毛新聞社出版局  
定価1,500円(税込)  
順道館桜井道場  
Tel:027-361-2501 Fax:027-361-8933  
(割引価格1,200円でご購入頂けます。)



スウェーデン南部オスビーからスウェーデンの情緒あふれる四季折々の様子、国民性、環境問題など盛り沢山の内容。本書を読むことでますますスウェーデンが好きになり、また自己を再発見できるという貴重な1冊。

【著者：アキコ・フリッド】群馬県生まれ。92年スウェーデン人のマーティン・フリッド氏と結婚。93年春よりオスビー在住。現在、マーティンさんと共に「遺伝子組み換え食品」問題について取り組んでいる。

※ここでご紹介している(1)、(2)は、会員の方には事務局にて割引価格でご購入頂けます。(3)については直接ご連絡してください。

## JISS INFORMATION

### 事務局移転

スウェーデンセンタービル取り壊しに伴い5月15日付けにて事務局を下記住所へ移転致しました。移転を機に、より一層のサービスの充実をはかり皆様のご期待に沿うよう努力致す所存でございますので、今後とも宜しくご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。なお営業日の変更となり、水曜日がお休み、土曜日が営業日となります。



### ホームページ開設中

会員の皆様に、より早い情報の提供を目指し、ホームページの開設の準備をしています。9月上旬には開設いたしますので、どうぞご利用ください。  
ホームページ:  
<http://www.sci-news.co.jp/sweden/>  
メール:sweden@sci-news.co.jp

## JISS EVENT'S ROOM SCHEDULE 当事務局のイベントルームで行います。

### ビデオ 上映会

**8月28日(土)** 13:00~(90分) 日本語字幕、先着25名、費用無料  
★お茶のご用意を致しております。

#### 「やかまし村の子供たち(Alla vi barn i bullerbyn)」1986年

「マイライフ アズ ア ドッグ」のラッセ・ハルストレム監督、「長くつ下のピッピ」のアストリッド・リンドグレン原作・脚本。

やかまし村は赤い屋根が3軒だけの小さな村。でも6人の子供たちでいつも

にぎやか。夏至祭がやってくるといよいよ待ちにまった夏休み。北欧の夏は短いけれどそこで生き生きと飛び回る子供たちの姿が、森と湖に囲まれた北欧の自然とともに描き出されています。

### 写真展

**9月6日(月) ~27日(月)**  
10:30~17:30  
(水、日、祝日休)  
主催:dill communication

#### 「スウェーデンのながいさんぽ道」

スウェーデンをゆっくりとまるで長い散歩をしているかの如く風景や人々を写し出しています。



## JISS 第99回スウェーデン語講習会

**1999年9月7日(火)~12月18日(土)全15回**

入会金:5,000円(新規受講者のみ) 受講料:各コース38,000円  
テキスト代:別途必要となります。

定員:各15名(5名より催行。定員になり次第締切ります) 申込締切:8月24日(火)

#### ◇スウェーデン語初級Ⅰ 火曜日/19:00~20:30/9月7日~12月14日

スウェーデン語は初めてという方のレベルです。  
物事の基本的な描写、質問をしたり、答えたりすることができます。  
講師:速水望(東海大学北歐文学科非常勤講師)

#### ◇スウェーデン語初級Ⅱ 金曜日/19:00~20:30/9月10日~12月17日

スウェーデン語の初歩的なレベルの方です。  
基本的な言葉を理解し、使うことができます。  
講師:速水望(東海大学北歐文学科非常勤講師)

#### ◇スウェーデン語中級 土曜日/11:00~12:30/9月11日~12月18日

スウェーデン語を半年以上学んだ方のレベルです。  
会話に慣れ、会話に必要な言語関連の知識を身につけるにつれ、  
単語、文法、表現の範囲を実践的に広げていきます。  
講師: Robert Carlsson

振込方法:郵便振込 口座番号:00180-8-84429 社団法人スウェーデン社会研究所  
※講師は事情により変更することがあります。

また、定員の都合により開講できない場合がありますのでご了承下さい。  
※お申込・お問合わせ先:(社)スウェーデン社会研究所 松元まで

### 講演会 10月下旬予定

#### 「アルフレッド・ノーベルの人となり」

講師:津金レイニウス豊子氏

### スウェーデン社会研究月報の発行予定

NO.311 8月下旬発行  
NO.312 9月下旬発行

### 会員募集(ご紹介)キャンペーン ~9月30日(木)

JISSは現在、会員の募集を行っております。  
期間中に会員に募集された方、またはお知り合いをご紹介していただいた方に「スウェーデン絵はがきセット(5枚)」をプレゼントいたします。詳しくは事務局までお問い合わせください!

## The Japan Institute of Scandinavian Studies



(社)スウェーデン社会研究所 事務局(松元・Matsumoto)  
〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1(株)科学新聞社内5F  
C/O Kagakushinbunsha, 1-8-1 Hamamatsucho, Minato-ku, Tokyo105-0013 Japan  
TEL:03-5776-1835 FAX:03-5776-1836  
月曜日~土曜日(水、日、祭日休) 10:30~17:30 Mon to Sat (Wed, Sun, Holiday close)